

平成 26 年度

# 学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立

武 庫 中

学 校

## 平成26年度 学校評価

[各校の重点取組について]

本年度は、本校では、「知・徳・体のバランスのとれた人間の育成を目指す。」という目標をかかげ、具体的な取り組みとして、「学び続ける意欲・態度を育てる」「豊かな心を育む」「基本的な生活習慣を身につける」を設定し、その達成に向けて学校全体で努力してまいります。

### 学校教育に関する重点取組

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<b>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</b>	<b>3</b>	<b>3</b>
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 校種間連携の取組を促進し、滑らかな成長を推進する		
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力分析は詳細に行った。現在授業改善に取り組み学力が向上した。</li> <li>・小中交流では、小中合同研修を8月に実施。中学校にて6年生の授業を1月に1日間実施して、中学校教師が授業を行った。また、相互授業参観、生徒指導上の情報交換等校種間での情報の共有を図っている。小中連携においては、大いに効果が期待できる。</li> <li>・巡回相談を実施。アドバイスを参考に取組んだ。・特別支援教育については個別計画が十分できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究授業の持ち方を工夫する。</li> <li>・小中交流では、教科において情報交換を進める必要がある。</li> <li>・授業改善において、市教委の授業改善アドバイザーをもっと回数を増やして活用して行く。</li> </ul>	
<b>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</b>	<b>3</b>	<b>3.5</b>
(1) 道徳性育成の取組を促進し、良好な人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、問題行動の未然防止を図る (3) 相談体制充実の取組を促進し、不適応行動への早期対応及び長期欠席の改善を図る (4) 進路指導充実の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ全員元気な挨拶や校歌をしっかりと歌うようになった。</li> <li>・掃除が行き届き校内校外、きれいになった。</li> <li>・長欠者個々に応じた取組ができた。(今年度からSSWも活用する)</li> <li>・キャリア教育を計画的に推進した。</li> <li>・教育相談週間を設け、生徒理解に努めることができた。</li> <li>・命の大切さを学ぶ向上プログラム講演会を1回実施した。道徳・学活で事前・事後授業及びアンケートをとり結果分析を行い変容ぶりを計ったところプラスの変化が出ている。あと3回同手順で実施する。</li> <li>・いじめに関して、大学教授を招いて講演会を教職員・保護者・地域に行った。生徒会主催で「いじめ0運動」を開始。その中で、いじめの標語をつくり、幟を作成して、文化発表会でいじめ撲滅ビデオを作る。</li> <li>・市内道徳研究発表を全クラス行い、大学教授の講演会も行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長欠者の対応については、早期対応が必要である。はつらつ学級、訪問指導員。教育相談との連携はできているが、一層の連携を図って行く必要がある。</li> <li>・キャリア教育の充実し計画する。</li> <li>・道徳の時間の確保はできたが、教材の充実が課題である。</li> </ul>	

<b>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校だより」「保健だより」等各種たよりを通して基本的な生活習慣の定着・健康の増進の重要性を啓発できた。</li> <li>・家庭科の中で、食育授業を2年生で行った。尼崎市の食育サポーターとともに、弁当作りを行った。</li> <li>・遅刻者は各学年数名で、それ以外の生徒は8時25分には教室に入って朝学習をしている。</li> <li>・欠席者が少ない。</li> <li>・朝ご飯を必ず食べてくる生徒が9割である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校だより」「保健だより」等各種たよりを通して基本的な生活習慣の定着・健康の増進の重要性をより一層啓発して行く。</li> <li>・食育に関する講演会を生徒向け、保護者向けに行う。</li> </ul>	

<b>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日登校時に安全指導を実施する。</li> <li>・各学年で割り当てて、登下校の安全確保を行った。</li> <li>・命の大切さを学ぶ向上プログラム(講演会を年4回)の中で、今年度は阪神大震災における講師を招き講演会を行い、職員、全校生徒、地域が参加して防災教育を学ぶことができた。</li> <li>・安全教育担当を中心に、防災教育(避難訓練、防災に係る講演会)を生徒向け、職員向けにそれぞれ行うことができた。</li> <li>・生徒会中心の気仙沼市の支援を続け、防災意識をさらに高めることができた。</li> <li>・小学校の児童会と中学校の生徒会合同で交通安全運動を実施できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日登校時に安全指導を全職員で行い、保護者の協力も得る。</li> <li>・生徒会中心の気仙沼市の支援を続け、防災意識をさらに高めて行く。</li> <li>・来年度も小学校の児童会と中学校の生徒会合同で交通安全運動を実施できるようにする。</li> </ul>	

<b>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</b>	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る (3) 学校評価活用の取組を促進し、学校運営の改善と発展を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりを地域に配布し開かれた学校づくりに努めている。</li> <li>・ホームページも3月までに、週に3回以上のペースで、200回以上の更新をして、地域に発信できた。</li> <li>・若手教員を対象に自主研修を実施した。1学期に生徒指導研修を実施。2学期以降は、授業改善や保護者対応についても研修し、3学期には、新任教員3名による校内研究授業を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校だより」「ホームページ」の回数を増やしたり、地域行事に積極的に参加したり、地域に開かれた学校づくりを目指す。</li> <li>・若手教員を対象とした自主研修を月1回は行いたい。</li> </ul>	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	3
取組とその成果		課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒朝礼時の校歌斉唱ができた。</li> <li>気持ちの良いあいさつが励行され、定着した。</li> <li>生徒会を中心に毎月募金活動を継続。気仙沼市との交流をしている。</li> <li>クラブ員による自主清掃を継続できた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標が日々の教育活動に反映しているかを意識し教育実践を行っていく。</li> </ul>	

dekita

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3
取組とその成果		課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマ「高校の新区制を向けて、全学年の学力向上を図る。」を推進する。特に、学力分析を行い、わかる授業づくりに取り組む。</li> <li>心の豊かな生徒の育成をテーマの柱に掲げ、命の大切さを学ぶ向上プログラム(講演会を年4回)を実施。事前・事後授業を道徳・学活で行いアンケートをとり結果分析を行い変容ぶりを計ることができた。</li> <li>学力向上に向けて、土曜チャレンジと平日放課後1回の補充学習を行い大いに効果が上がった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>武庫中学校の生徒が今後身につけていかなければならない学力は何かを共通認識し、研究推進を中心に学力向上プログラムを計画して行く。</li> </ul>	

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果		課題と改善策	